

赤い羽根共同募金の
助成を受けています。



東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

福玉便り

ふ く た ま だ よ り

11
12

2018年11月1日発行

通巻第74号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部 連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さい浦和区常盤6-4-21
ときわ会館4F TEL080-4331-0290

埼玉県内に避難されているみなさまへ

あつまれ東北人!

第19回 福玉サロン in川越

日常の忙しさをしばし忘れ、ほんのひと時、日本の
伝統文化にふれてみませんか?

今回、福島県復興支援員埼玉事務所では、どなたで
も気軽にご参加いただけるお茶会を企画しました。
茶道の体験コーナーを準備しております。

- 日時:12月12日(水)PM13:00~15:00
- 場所:ウェスタ川越 2F和室&活動室3
川越市新宿町1-17-17 JR川越線、東武東上線「川越駅」より徒歩5分・西武新宿線「本川越駅」より徒歩15分 有料駐車場有
- 内容 伝統文化に触れて茶道で……おもてなしを学
びませんか! 抹茶とお菓子で至福のひと時を~
いつもと違って今回のテーマは学びを取り入れて
みました。茶道での作法を学びワンランクアップし
て頂きたいと思い企画しました。いつも参加くださ
っている方も、まだ参加したことがない方も、区域に
関係なく、心をゆるめにいらしてください。支援員一
同、お待ちしております。

- 12:30 受付開始
- 13:00 開会 ふくしま弁でしゃべって交流。
- 13:30 茶道教室 & おもてなし体験 ~
- 15:00 閉会

お着物で参加の方は記念撮影付き
もちろん茶道は洋装でもOKです!



- 先着30名 ●参加費 300円 ●参加申込 12月6日
(木)までに下記の事務所までお電話ください。
☎048-814-1111(火・水・木:9:00~16:00) 福島県
復興支援員埼玉事務所まで
- 主催:一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会
☎048-833-8731(上記不在の場合:平日9:00~16:00)
- 共催:福島県復興支援員埼玉事務所・富岡町県外避難
者支援拠点事務所 当日の連絡先080-8764-7927

福玉相談センターからのお知らせ

福玉相談センター交流会

これから安心して暮らすために、健康を維持するた
めのヒントを学びましょう。

前半は医療生協さいたまによる講話を聞いた後、簡
単な体ほぐし、脳トレなどを行います。越谷市福祉推
進課からの情報提供もあります。

後半は交流会を行います。福島県避難者支援課、埼
玉県住宅課、社会福祉士も参加しますので、健康・介
護・住宅などのご相談にも対応します。どうぞご参加
ください。

*個別相談をご希望の場合、事前にご連絡いただくと
幸いです。

- 日時:11月15日(木) 13:00~16:00

- 会場:越谷市サンシティホール

(越谷コミュニティセンター)

〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷1-2876-1 TEL:
048-985-1111(代表)

電車:JR武蔵野線南越谷駅、東武スカイツリーライ
ン新越谷駅(地下鉄日比谷線・半蔵門線直通)東口よ
り徒歩3分、自動車:東京外環自動車道・草加ICよ
り10分、駐車場:ホールには無料駐車場がございま
せんので、近隣の有料駐車場をご利用ください。

<参考>サンシティ地下駐車場 料金:110円/30
分 営業時間:7:00~22:30

- 問い合わせ先:福玉相談センター(福島県県外避難
者相談センター)

TEL:0120-60-7722(携帯・PHSもOK/月曜~金
曜日午前9時~午後5時)

メール: fukushima_soudan@yahoo.co.jp

福玉相談センターによる 住宅説明会を開催しました

二〇一八年一〇月一日に、With youさいたまにて、福玉相談センター主催の「住宅相談会」が開催されました。



説明会には四名の方がお越しになり、相談者の個別相談を中心に行いました。

た。

埼玉県住宅課

の方から、埼玉

県営住宅の入



りましたら、福玉相談センターに電話でおたずねいただいても大丈夫です。

今回の説明会には、埼玉県社会福祉士会の多ヶ谷さんにもお越しいただきました。埼玉

居に関する説明をしていた
だき、相談者の方に個別に
相談を行いました。県営住
宅の入居に関しては、所得
制限などの条件があります
ので、申し込みの前に相談
していただくことをお勧め
します。わからない点があ

県社会福祉士会は、旧騎西
高校で避難生活を送られ、
避難所の閉鎖の際になかな
か転居先が決まらなかった
双葉町の方に住宅転居の支
援を行ってきました。現在
も引越先先に訪問し、相
談にのっているそうです。

今年の夏から福島県生活拠
点課から避難者住宅確保・
移転サポート事業を受託
し、応急仮設住宅の供与終
了後に新たな住宅確保の目
途が立っていない方に対し
て、新たな住宅等に円滑に
移行できるように、住まい
探しの支援（生活状況に応
じた物件相談、不動産事業
者への付き添い）や、手続
き支援（賃貸住宅契約時や
転居時の必要書類作成）を
行っています。こちら是非
ご利用ください。

を伺うと、避難者の住宅に
関する問題が、単に住居の
斡旋を行えばよいわけでは
なく、さまざまな悩みを総
合的に解決する必要を感じ
ます。福玉相談センターで
は、多様な相談に対応し、
支援のコーディネートを行
っていきたいと思います。
もしお困りのことがあれ
ば、ご連絡ください（〇一
二〇一六〇一七二二）月
曜日から金曜日：午前九時
から午後五時まで）。

（編集部・西城戸）

牛山元美先生プロフィール：さかみ生協病院内科部長。島根大学医学部臨床教授。11311 疫学調査団理事。原発事故後、福島県や関東 地方の子どもの甲状腺 検診にあたる。2016年3月に発足した「311 甲状腺かん家族の会」の世話人を経て、現在は「3.11 甲状腺かん子ども基金」顧問。

- 日時：12月1日（土）
- 場所：未定ですがさいたま市内を検討しています。
- 時間：お話を、30分～1時間行ったあと、検診は、2時間ほどの枠で、20～30人の予約を受け付けます。
- 対象：大人も子どももOKです。
詳細は、追って福玉HPにて掲載しますので、ご確認ください。
参加希望される方は、相談センター窓口までお問い合わせください。
- 主催：福玉相談センター 電話：0120-60-7722

東日本大震災被災者支援・復興応援イベント 「縁joy・東北」2018

- 日時平成30年11月17日（土） 開催時間 10:00～15:00
- 開催場所 千葉市きぼーる 1Fアトリウム
住所：千葉市中央区中央4-5-1
どなたでもお気軽にお立ち寄りください
- 体験 親子であそぼ 会津起き上がり小法師絵付け体験／子ども工作（プラスチックで作る舟）／プラ板キーホルダー作り／ハーバリウム体験作り／東北クイズラリー／缶バッジ作り／ホットケア／会津起き上がり小法師絵付け体験／子ども工作（プラスチックで作る舟）／プラ板キーホルダー作り／ハーバリウム体験作り／東北クイズラリー／缶バッジ作り／ホットケア
- 宮城県の物産販売
昭和のカレーライス／会津木綿のあいくーと小物たち／岩手県陸前高田の牡蠣（蒸し焼き）／CUCコーヒー、山武和牛のソーセージ他／手作り品（バック、帽子、手袋、革小物他）
- 写真展示 震災を忘れない
- ステージ企画
（いけばなパフォーマンス）つながろう花の心実行委員会 塚越応駿さん、（ゆるキャラ）がっきー君、チームキビタン、ハートィちゃん、（歌）横洲かおるさん、（踊り）福島県／大熊町相馬流れ山踊り保存会、（踊り）ばか面笑福踊り／笑幸連（避難者の体験：講演）「會空の歩み」大熊町／庄子ヤウ子さん（神楽）福島県／浪江町川添芸能保存会（民謡）原田直之さん
- 専門家相談 被災者・支援者対象、生活／健康／住宅不動産
- 協力：チームキビタン、中央労働金庫、千葉県社会福祉協議会
- 主催：「縁joy・東北」2018実行委員会
事務局・ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 電話 043-303-1688 担当：風間・鍋嶋

ホープウィズ 2018 クリスマスチャリティコンサート vol.10 今、一人一人ができること

このコンサートは少しでも社会の役に立ちたい、
と思いついて 2009 年に始まりました。災害が多かつ
た今年の公演収益は、災害時被災地に即時に医療関
係者を派遣する「空飛ぶ医師団」へ寄付されます。
2011 年から毎年東日本大震災で被災された方々を
ご招待し、パイプオルガン、グランドピアノという
2 大鍵盤楽器と当代を代表するオペラ歌手の競演
を堪能していただきました。

今年もまた実行委員会よりご招待のご案内が届
きました。ご希望の方は薄井まで (080-5532-7380)
ご連絡ください。

お申し込みは 11 月 20 日までをお願いします。

- 日時:12月4日(火)18:30開場/19:00開演
- 場所:東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂
電車東京メトロ有楽町線「江戸川橋駅」(出口1a)より徒歩15
分 バス「ホテル椿山荘東京前」JR山手線目白駅、新宿駅より。
- 主催:ホープウィズチャリティコンサート実行委員会
<http://www.hopewith.jp>

メリークリスマス in 新都心♪ ～アロマとアートのクリスマス～

- 日時:2018年12月9日(日)
集合時間:10:20(現地集合)
- 会場:With Youさいたま セミナー室1
10:30 アロマキャンドルづくり
12:00 昼食(お茶・お弁当をご用意しております!)
- 13:00 クリスマスキャンドルフォルダーに描く
14:45 解散
- 参加費:無料
- 締め切り:11月22日(火)
- 定員40名
- 申込先:
特定非営利活動法人日本臨床美術協会 事務局
電話 050-3735-2028(平日9:30~18:30)
メール association@arttherapy.gr.jp



ふくしま避難者交流会

日時 平成30年12月9日(日)14時～
場所 東京国際フォーラムホールD5(D棟5階)
東京都千代田区丸の内3-5-1

福島県から避難された
方を対象に、交流会を行
います。個別相談やステ
ージショーも行いますの
で、是非会場にお越し
ください。

ふるさとの現状など
を知る良い機会となり
ますので、お気軽にお
越しください。



《以下の市町村の職員が参加予定です》
福島市、郡山市、いわき市、南相馬市、富岡町、
大熊町、双葉町、浪江町、飯館村

- 内容
- ▼個別相談会
・原子力損害賠償・廃炉等支援機構(弁護士)による専門相談
・福島県居住支援協議会による住宅再建等相談
・除染に関する相談、就学に関する相談
・復興公営住宅に関する相談、総合相談
- ▼ステージショー
福島県いわき総合高等学校によるフラダンスショー
- ▼展示ブース
避難された方、支援されている方が製作した小物類、情報紙等の展示
- 事前申し込み不要

- 会場のご案内
東京国際フォーラムホールD5 D棟5階(受付、交流会、個別相談会)D棟4階(個別相談会)
東京都千代田区丸の内3-5-1
《最寄り駅》地下鉄/有楽町線有楽町駅(B1F 地下コンコースにて連絡)、日比谷線銀座駅徒歩5分/日比谷駅徒歩5分、千代田線二重橋前駅徒歩5分/日比谷駅徒歩7分、丸の内線銀座駅徒歩5分、銀座線銀座駅徒歩7分/京橋駅徒歩7分、三田線日比谷駅徒歩5分、JR線/有楽町駅徒歩1分、東京駅徒歩5分(京葉線東京駅とB1F 地下コンコースにて連絡)

- 主催:福島県
共催:公益財団法人さわやか福祉財団、東京都

- 連絡先 福島県 避難地域振興局 避難者支援課 024-513-4157

福島のみま



「復興」の名のもとに、刻々と変化していく福島県。一時帰宅をさせていらっしやる方々は、身をもってご存知ではないかと思えます。10月28日には県知事選が行われましたが、今後、福島県はどのように変わっていくのでしょうか。

■中通り

2011年、原発事故のあと、秋ころになってようやく除染が行われました。まずは子どもたちの生活環境が優先され、そして自宅除染も開始。その汚染土壌は市町村によって管理にばらつきはあるものの、そのまま学校付近、自宅敷地内に置かれたり埋められたりしていました。2017年度には除染は事実上の終了。市町村が管理していた除染は、環境省の判断に委ねられています。局所的な汚染が発見された場合、再び除染をするかどうかは、環境省・市町村の協議で決定します。「24時間そこにい

るわけじゃないから大丈夫」と言われ除染は行われなかったという話は、何度か耳にしました。

2018年10月現在、それらの除染で出た放射能汚染土は「除去土壌」と呼ばれ、掘り出され、集積所へと集められて、大型トラックで中間貯蔵施設へと運ばれています。先日、郡山市からいわき市

へ常磐道を使って移動した際、およそ1時間半の道のりで、その「除去土壌運搬」の表示のあるトラックを、15台ほど見かけました。

そして、「モニタリングポスト」の撤去についても議論が起きています。公共施設などに置かれた約3000台のうち、2400台を撤去するという方針を国が示し、その公聴会が全県各地で開催されているのです。「廃炉作業中の原発に何かあったとき、近くにないのは不安」「我々の生きている時代には撤去してはいけないのではないか」といった声も伺って

います。

■浜通り

2017年春に大規模な避難指示解除が行われ、それまでに避難指示解除された地域も様々な変化がありました。フレコンバックは移動し、田畑に積まれていた風景が少しだけきれいになりました。それらは、仮置場に置かれ、まとめて保管されています。その汚染土も、中間貯蔵施設へと搬入されています。

また、家屋の解体も地域によって進められ、「どこにいるのかわからなくなった」という方がいらっしやったほど、建造物が壊され、更地になっっています。「本当に失ってしまったのだ、と苦し思った」という声と、その一方で「気持ちの踏ん切りがついた」という声と、さまざまな思いがあると感じています。そして、新しい建造物も建てられています。「アパートがどんどん建っている」と教えてくださった方もいますが、それらは原発の廃炉作業に従事する方々のためだという話もありました。ま

た、廃炉技術を研究するための研究施設、新しく立派な公共施設など、開発型の復興も進められています。

一方、中間貯蔵施設の地権者である方々も、望まない選択を迫られ、複雑な思いを抱えていらっしやいます。「せめて一箇所だけでも、何か思い出の土地を残してほしい」という言葉も伺いました。慣れ親しんだ、歴史と愛着のある風景が、中間貯蔵施設として全く違う地域になってしまふことへの、悔しさ、やり切れなさを教えてくださったのだと思います。

帰還された方々の人数は、毎月、町が発表していますが、数%から十数%にとどまっています。そのうち、原発事故前から居住していた方の人数は、三分の二くらいである、と、ある役場職員は話してくれました。残りの三分の一は、復興事業に従事する方、作業員の方など。町・村の構成員が変化すると、その地域も少しずつ変容していくのではないかと、という懸念の声も伺いました。避難しながらも、どのように大切な土地に関われるのか、という大

きな課題も残されています。4

■原発のみま

廃炉作業が行われている原発そのものは、「安定している」ということになっています。しかし、40年廃炉の「40年」の明確な根拠はありません。いまなお、原子炉の中の詳細な様子は明らかにしておらず、「廃炉」が、原発のあった土地を更地にすることを指すのか、いったい、どのような状態が廃炉なのか、その定義も明確ではありません。

東京電力は、原発の視察ツアーを積極的に行っており、年間2万人の原発視察者を目指す、と話しています。そして、11月には「廃炉資料館」が富岡町にオープン予定です。

廃棄物のことを考えれば、何千世代にもわたってしまふ負の遺産を、どのように伝えていくのか。加害者・被害者だけでなく、この時代にこの国に生きていくすべての人に問われているのかもしれない。

(編集部：吉田)

ママランチ会報告

毎年恒例、大人気の「ママランチの会」が、9月19日大宮パレスホテル1階レストラン「パルテール」で開催されました。今回は新しい方が2人参加され、様々な被災元から11人のママさんが集まって下さいました。皆さん北海道フェアのバイキングに舌鼓を打ちながら現在の暮らしの様子や子供たちの学校の話題に花が咲いて、あっとい間の2時間半でした。福島名産ビンゴゲーム、美味しいもの当てビンゴゲームでは大盛り上がり、皆さん童心に帰って楽しんでいらっしやいました。参加されたママさんから、「毎年楽しみで仕事の休みを取っておしゃれしてきました」ときれいに染めた爪を見せて下さいました。「日頃の子育てから解放されて楽しかったです」「久しぶりに福島の言葉で話せて嬉しかったです」「ストレス解消になりました」という感想を頂き、「来年も絶対来ます」という嬉しいお言葉も頂きました。



「ママランチの会」を通じて、短い時間ですがママさん達がほっとでき楽しいひと時が持てるよう次回も素晴らしい会にしたいと思います。次回は来年2月の予定です。
(福島県復興支援員 埼玉事務所 相川)

巨星、墮つ〜高木成幸氏逝く



は被災地出身なのだろうか？」そんな印象を持ち、歌い終えてから私は彼の元に駆け寄った。それが高木さんだったのだ。

私が高木さんに初めて会ったのは2012年の2月、早稲田大学での「ふんぼうろ東日本」というイベントでだった。チラシを見たところ、避難者間交流会の様相を呈した会は、主催の「ふんぼうろ東日本」側の手配で出し物の全てが用意されていた。出演は演劇や演奏だったと記憶している。断られるのを覚悟で、私はギターを抱えて来場、担当者に飛び入りの交渉をした結果、快諾。急遽、出演することに。数曲を歌った、その際、会場を精力的に走り回るカメラマンの姿が舞台からもはつきりと確認出来た。「あの方



それから私は、シラコバト団地で開催している、ひまわり主催の上映会で高木さんのスライド上映を開くタイミングを窺った。2014年は南相馬市出身の小説家・志賀泉氏が解説・進行する映画、2015年は宮城県出身上尾在住の映像作家・伊藤義将氏の作品となったため、満を持しての登場は2016年となった。その際、高木さんの解説付で進行するスライド上映を、会場の都合で時間通りに切り上げたのだが、アンケートには「もっとスライドが観たかった。」との意見が書かれていたのを思い出す。第一回目の上映会と高木さんとの出会いが奇しくも2012年で、それから4年の歳月が流れていた。高木さんの上映会を終えたとき、やっと悲願が達

成出来たと感じていた。南相馬市出身の小説家・志賀泉さんから「高木さんが入院したから、お見舞いに行こう」と連絡が来たのは今年の冬だった。ふたりで大久保の病院に向かったところ、高木さんは浪江に関する取材を受けていた。入院中にも関わらず、精力的に活動する姿は、私に初めて高木さんに会った時を思い出させた。そして、今年の夏、訃報が届いた。やはり志賀さんからの報せであった。8月30日が告別式、31日が葬儀のことだった。一次は退院していたので、「まさか」という思いもあったが、被爆の危険を押しての撮影に「もしや」との思いも巡った。享年75歳、高木氏逝く。

被災地・浪江の写真を日本一撮ったといわれる巨星、墮つ。改めて氏から手渡されたスライド上映のDVDを開こうと思う。合掌。
(東日本大震災に咲く会 ひまわり 橘光顯)

田島美希さん

福島県中通りから埼玉
県に避難（仮名・40代）

原発事故から半年後、家族で避難をするために、夫は単身、西日本で就職活動を行い、私と当時小学校の低学年だった娘は福島県中通りで一年半、母子で生活をし、夫の仕事が決まるのを待っていました。当時は放射線量も高く、不安な日々を過ごしていました。

事故の直後は、政府の広報・テレビなどの情報で、屋内にいれば安心だと思っていました。しかし、事故から3ヶ月ほどたった頃から、屋内の放射線量も気になっていました。でも、線量計は手に入らず、報道で近隣地域の空間線量をチェックするしかありませんでした。

新学期が始まってからは、無用な被ばくを避けるために娘は車で学校まで送迎することにしました。夏でも長袖長ズボン、帽子にマスクと異様な光景。家の中の放射性物質を減らしたために、毎日のように拭き掃除も始めていました。娘の健康を守るために必死になっていましたが、原発事

故から一年が経った頃から、その生活に限界を感じ始めていました。

危険なはずの放射能が「安全」と言われる講演・イベントを多く目にし、ますます不安になっていました。外遊びが大好きだった娘は次第にストレスがたまり、体調がよくなるどころか、体にも影響が出てしまいました。屋外活動が制限され、行事も中止になりました。

ようやく空間線量系の貸し出しが始まり、家の中を測定しましたが、毎日必死になって拭き掃除をしても、放射線量が下がっていないことを知り、とつとつこころはダメだ、と感じました。

慣れ親しんだ友人、学校の先生、そして私の実家、親戚たちと離れることを、娘は嫌がっていました。夫の待つていた西日本へと避難しました。娘の健康のことを考えると、将来的に取り返しのつかないことになってしまったら……という不安に襲われていたのです。

娘は避難先でも、福島原発のニュース映像を見て泣いていました。なぜ娘が小さな心を痛めていたか。福島には大切な人たちが残

って生活していたからです。原発が再び爆発したら、放射能汚染が拡大したら、大切な人たちの命がどうなるのか分からず、心配で心配で仕方なかったからです。

その避難生活も思っていた以上に大変なものでした。見知らぬ土地での言葉・風習の違いに私は娘は逃げ場を失っていました。放射能から逃れ、健康的な生活を送っているはずなのに、心の中は闇のように孤独でした。夫の仕事はなかなか見つからず、やむなく2014年に首都圏へ移動し、生活することになりました。その頃には、家族それぞれが心身に病気を抱えることになってしまったのです。

娘は、2014年の夏、風邪の治りが悪く、たまたま検診で首の腫れが確認され、甲状腺血液検査をする事になりました。疾患が見つかりました。原発事故後の生活の変化による心的外傷後ストレス障害。夫は慣れない土地での生活に、大量の仕事を抱え込んだ結果、適応障害と診断されました。そして、私自身にも、甲状腺の疾患が見つかってしまいました。

夫が療養している間、私も仕事を始めましたが、もともと「男性

が怖い」という気持ちがあるため、業務中にたびたびパニックに陥りながらも、「この仕事をやめたい」と思っていたら住むところがなくなってしまった。生活がでなくなってしまう」という気持ちが大きく、家族を守るために必死でした。

「直ちに健康に影響」はありませんでしたが、怒りを感じました。あの時、「直ちに影響はない」というのではなく、子ども、そして私たちの健康を守るために「避難」を呼びかけてくれたら、少なからず健康は守れたのではないのでしょうか。国や東電が原発の管理をしっかりと行えば、最悪な原発事故を防げたのではないのでしょうか。

今年の春、帰省した際、それまで放射線量を測定していた近所の公園で「線量の測定は終了しました」と看板に記載されていたのを見て、驚きました。その次に帰省したときには、その看板すら撤去されていました。いま、公共施設に設置されているモニターングポストも撤去されようとしていることを耳にしました。福島県内に住み続けている人たちは、何を自安に生活していけばいいの

でしょうか。避難している私たちが心身ともに病気に苦しい思いをしているのですから住み続けたい人たちは、私たち以上に苦しい思いを抱えているのではないかと思います。

私たち家族は、まだ地に足がつかないままです。将来の不安ばかりが大きくなっています。でも娘の健康を守りたい、これ以上病気を悪化させたくない気持ちは変わりません。もっと早く避難しておけばよかった、という後悔ばかりです。

子どもは国の宝です。その子どもたちの健康を守るのには大人の義務ではないのでしょうか。避難指示区域を問わず、避難させて、子どもを守ることは当たり前のことだと思っております。最近、原発再稼働のニュースを見ていても残念に思っています。福島原発の事故が教訓になっていないからです。

国や行政機関の方々には、もっと被害者の声に耳を傾けて、寄り添ってほしいと思います。子どもを持つ親の気持ちも考えてほしいのです。そして、命と健康を守ることを最優先に考えてほしいと願っています。

富岡町川越交流会報告

秋の気配が感じられる様になった9月11日(火)、「懐かしい笑顔に再会」を合言葉に、福島県郡山市近郊にお住まいの富岡町民と、埼玉県川越市近郊にお住まいの富岡町民との交流が、川越市「小江戸街並」で行われました(富岡町社会福祉協議会との共催)。

郡山市近郊にお住いの町民30名が観光バスで川越市の喜多院に到着し、川越市近郊にお住まいの町民7名がお迎えして、まずは喜多院を観光しながら交流会が始まりました。

富岡町から避難して、川越と郡山とで離れて過ごしてはいますが、話をしていると富岡の街並みを思い出して、「誰さんの近所だったね」「あのお店の奥さん？」など、懐かしい笑顔に再会です。7年前から離れて過ごして、再会の喜びと昔話に、喜多院や五百羅漢など重要文化財も上の空のようでした。

昼食のあと、小江戸川越「蔵造りの町並み」・「時の鐘」(川越市指定文化財・残したい日本の音風景100選)などの街並み散策をしました。

少し汗ばむ気候でしたが、晴天の「小江戸川越」を思い思いに散策して、郡山にお住いの方々はお土産を手いっぱい抱えてバスに乗り込み、埼玉にお住いの町民との再会を約束して、帰途につかれました。

(富岡町県外避難者支援員・井上)



新家屋購入に関するご相談にも対応しています

復興庁が平成30年9月28日に公表した数字によれば、埼玉県への避難者数は3,520名、首都圏(関東一都六県)には22,330名もの方々が避難生活を継続していらっしゃいます。

ご両親、お子様、配偶者など、ご家族のことを考えると、これからの事をまだ簡単には決めることができない方は、たくさんいらっしゃるでしょう。

さて、かねてから福島第一原子力発電所の事故に伴う住居確保に関する損害賠償に東京電力は応じていませんが、私たちSSNでは、新しい家屋を求める際のサポートを何件もさせていただいています。

特に、避難元の土地家屋の名義が先代のままの場合、共同名義の場合など、法律的手続きを行う必要があるケースでは、SSNの副代表である中川司法書士をはじめ、連携団体である埼玉青年司法書士協議会の司法書士に無料で相談に対応していただいております。

また、新たに購入した家屋の名義をどのようにすればいいか、将来的な事を考慮してお子様との共有名義にした方がいいというケースも考えられます。

一方で、3世代同居であったご家庭が、首都圏においては同居が難しいという場合、世帯を分けて家屋を購入することも、賠償上限値の範囲であれば可能となっています。

同時に、東京電力による損害賠償だけではなく、公的機関による税金面での優遇制度、自治体独自での高齢者や障がい者への支援制度など、知らずにいると損をしてしまうこともいくつもあります。

一生に一度ともいわれる新家屋の購入を、慣れない土地で新たに行う場合、不安がつきまとうことでしょう。

どこから手をつければいいのか、どのように進めていけばいいか、どこに手続きをすればいいかなど、ご家族の構成、現在のご事情、そして将来的な希望などに沿った形で新しい生活をお迎えいただけるよう、まずはご相談に応じさせていただき、ご要望に沿う形でお手伝いさせていただきます。

まずは、お気軽にお電話でご相談ください。ご連絡、お待ちしております。

本件に関するお問い合わせ、相談窓口

●震災支援ネットワーク埼玉事務局

電話：090-8879-0213(担当：愛甲) 受付時間：毎日10:00~18:00(相談対応中は留守電になりますのでメッセージをお願いいたします。)

32 玉兔の会
11/24(土)、12/15(土)
10:30~12:00
☎090-6128-1948 (小林さん)

33 つながり
奇数月第一土曜日(1月はお休み)
毛呂山中央公民館
毛呂山町 ☎090-9032-8116 河井さん

1日(土) 8
2日(日)
3日(月)
4日(火)
5日(水) 14
6日(木)
7日(金)
8日(土)
9日(日) 4
10日(月)
11日(火)
12日(水) 5
13日(木) 19
14日(金)
15日(土) 5 32
16日(日) 27 25
17日(月)
18日(火) 3 3
19日(水)
20日(木) 1
21日(金)
22日(土)
23日(日)
24日(月)
25日(火)
26日(水)
27日(木)
28日(金)
29日(土)
30日(日)
31日(月)



<http://431279.com/>
(SSN震災支援ネットワーク埼玉)

16 あゆみの会
越谷市 ☎090-9425-2001(石上さん)

17 つながりの会
東北復興支援販売
草加市物産・観光情報センター
☎048-932-6770(草加市社協地域福祉担当)

18 ひまわりの会
☎080-5431-0123(島田さん・留守電)

19 さいがい・つながりカフェ
月2回木曜日11:00~15:00
11/8(木)、11/22(木)、12/13(木)
11:00~15:00
(埼玉県男女共同参画センター・新都心駅7分)
04さいがい・つながりカフェ ☎048-601-3111, tu-nagari.saitama@gmail.com

24 新座さいがい・つながりカフェ
新座市 ☎090-2402-9155(谷森さん)

25 青空あおぞら
11/25(日)、12/16(日)
13:30~16:00
新所沢公民館(お子様OK! 法律相談可能)
所沢市 ☎090-8879-0213(SSN・愛甲)

27 おあがんんしよ
11/18(日) サロン、クリスマスアレンジづくり
12/16(日) クリスマス会&年忘れ会 13:00~フクトピア
☎090-5345-8408(松館さん)

28 ここカフェ@川越
11月 教育相談会
12月 未定
☎070-5080-4494(鈴木さん)

29 鳩のつどい
月2回 10:00~12:00
JAXA鳩山宿舎108号室
☎049-296-1241(鳩山町健康福祉課)

3 帰還支援セミナー&相談会&スマホ講座(すぎとSOHOクラブ)
11/20(火)、12/18(火)
加須ふれあいセンター
080-4725-1878、office@sai-tama.jp

4 ふくしま避難者交流会
12/9(日) 詳細は2ページ

5 福玉交流サロン
12/12(水) 詳細は1ページ

4 加須ふれあいセンター
ふれあい食堂
月~金の毎日(11時~13時は日替わり定食500円、13時から無料カフェ)
加須ふれあいセンター
加須市正能11-5 ☎090-1650-2874(富沢さん)

5 すくすくのあそび広場
11/18(日)10:00~14:00 不動岡公民館
12/15(土)10:00~14:00 愛泉寮(加須市土手)
小中高生勉強会(1対1で学習支援)
毎週木曜 17:00~19:00 市民プラザかぞ5Fと4F ☎090-2411-8598(戸恒さん)

8 東日本大震災に咲く会 ひまわり
11/3(土)、12/1(土) 定例会合 10:00~12:00
11/11(日) 池田農園収穫祭(作品展示会、同時開催) 11:00~15:00
シラコバト団地第一集会所
上尾市 ☎048-607-6723(団地自治会事務所)、☎080-3091-6215(橘さん)

10 くまがや結の会 熊谷市
11/17(土) 月例会 10:00~
食事処すすきの
090-7661-9236(林崎さん)

11 羽生つながりカフェ
☎080-5532-7380(薄井さん)

12 お茶っこふるさと会
久喜市 ☎090-6855-7140(木幡さん)

14 春日部つながりカフェ
11/7(水)、12/5(水) 13:30~16:00
コーププラザ春日部(法律相談可能)
☎090-8879-0213(SSN・愛甲)

15 ひだまり広場
ほっと越谷 参加費無料
☎090-8613-1284(佐藤さん)

1 ぼろろん♪の時間
11/14(水) ボーリング大会&交流会 10:00~
ユニクス川越(11/7までにご連絡ください)
12月 ランチ交流会
日時・場所調整中
070-5594-0053(鈴木さん)

2 福玉相談センター交流会
11/15(木) 詳細は1ページ

1日(木)
2日(金)
3日(土) 8
4日(日)
5日(月)
6日(火)
7日(水) 14
8日(木) 19
9日(金)
10日(土)
11日(日) 8
12日(月)
13日(火)
14日(水) 1
15日(木) 2 1
16日(金)
17日(土) 10
18日(日) 5 27
19日(月)
20日(火) 3 3
21日(水)
22日(木) 19
23日(金)
24日(土) 32
25日(日) 25
26日(月)
27日(火)
28日(水)
29日(木)
30日(金)



1 双葉町民によるボランティアカフェ
11/15(木)、12/20(木)いずれも10:00~15:00
法律家、心理士参加です。いきいきサポートセンター
☎090-8879-0213(SSN・愛甲)

3 双葉町老人クラブ女性会 &さいがい・つながりカフェ
11/20(火)、12/18(火) 10:00~12:00
いきいきサポートセンター
☎080-5532-7380(薄井さん)

『福玉便り』編集委員会
連絡先: NPO法人埼玉広域避難者支援センター
電話080-4331-0290 メール:fukutama@431279.com
こんな情報を掲載してほしい、この記事はよかった、など感想や質問をおよせください。

12 20 13:30-16:00 F
080-4331-0290

福玉便りの全バックナンバーのデータ、最新情報はNPO法人埼玉広域避難者支援センターのホームページにあります。→ <http://fukutama.org/>